

令和6年度鹿児島県がん教育モデル校としての取組

鹿児島県立加世田高等学校

Ⅰ. 取組内容

(1) 配慮の必要な生徒の把握等

事前に把握している配慮の必要な生徒には、担任と連携して個別に生徒・保護者へ確認をとった。その他の生徒には、事前授業で予告を確実に行うとともに、当日の授業では、配慮事項を伝え、複数職員で生徒の様子を観察し生徒の状態の把握に努めた。

(2) 事前授業（クラスごとに実施）

- ① 事前アンケート
- ② 文部科学省の教材（パワーポイント）を使用して復習
 - ・ モジュール1「がんという病気」
 - ・ モジュール2「日本のがんの現状」
- ③ 次回の授業の説明、講師の紹介
- ④ グループによる意見交換



【ワークシートへの記入及び意見交換の内容】

- ・ 「身近ながんと向き合うために、どんなことを知っておきたいか？」
- ・ 「外部講師の先生にどんなことを聞いてみたいか？」

(3) 本時の授業（令和6年10月29日）

外部講師：いまきいれ総合病院緩和ケア内科医師 原口哲子先生

学習目標：がんに関する知識を深め、健康や生命の大切さについて主体的に考えよう。

導 入：前時の復習として、がんは誰しもがかかり得る身近な病気であることを確認し、がんに向き合っていくために何を知ることが必要かを考えさせ学習課題につなげた。

展 開：原口先生より文部科学省の教材に沿ってお話をいただいた。

- ・モジュール3「がんの発生と進行」 ・モジュール5「検診の意味」
- ・モジュール7「がん治療の支援」 ・モジュール9「がん患者と共に生きる社会」

ま と め：がんについて感じたことや疑問に思ったことをグループで意見交換を行ったあと、外部講師へ質問を行った。

(4) 成果と課題（成果○、課題●）

- 昨年度の授業では深く触れることが出来なかった内容を、外部講師から詳しく説明していただくことで知識を深めることができた。
- 生徒が外部講師に多くの質問をするなど、健康や生命の大切さについて生徒が主体的に考えながら授業を受ける様子が見られた。
- 事前・事後アンケートから、「がんは予防できる」、「早期発見すればがんは治りやすい」、「がん検診は健康な人も定期的に受ける」、と認識している生徒が増加した。
- 今後は、入学年次の保健の授業に合わせて外部講師を活用できるよう、他の職員と連携した取組が必要である。
- 継続して実施するための予算の確保について、検討が必要である。